

周辺には、千代遺跡(縄文～古代)・中里遺跡(弥生)・三ツ俣遺跡(弥生～近世)など神奈川県を代表する各時代の著名な遺跡が多数所在します。

成田上耕地遺跡や高田南原遺跡など低地遺跡の内容は、周辺の遺跡とあわせて分析していく必要があります。



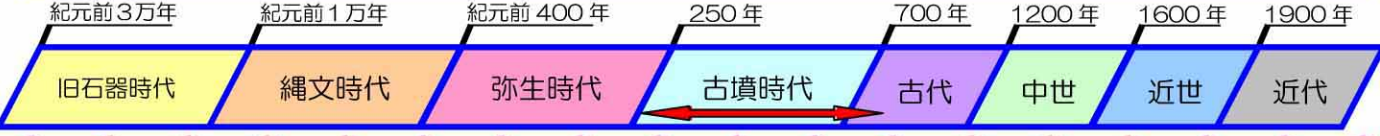
遺構や出土遺物は、写真や測量などの記録をとりながら取り上げます。

測量・記録作業

穴部・国府津線の発掘調査成果速報
 小田原市 成田上耕地遺跡
 2006.3.31
 財団法人 かながわ考古学財団
 〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
 TEL 045-252-8661



成田上耕地遺跡では、4世紀頃の方形周溝墓と呼ばれる墳墓や7世紀後半～8世紀初頭頃の竪穴建物跡と掘立柱建物跡などが発見され足柄平野を利用した古墳時代の集落が営まれていたことがわかりました。特に墳墓主体部の土器や溝の近くから出土した銅鏃は希少なもので、たいへん重要な出土事例です。今後も計画されている発掘調査により、周辺地域での具体的な内容が明らかになることと思われます。



考古学財団
 穴部・国府津線の発掘調査成果速報!
 なるだかみこうち
 小田原市 成田上耕地遺跡

発見! 古墳時代の銅鏃

なるだかみこうち
 成田上耕地遺跡の発掘調査

成田上耕地遺跡は、小田原土木事務所による都市計画道路 穴部・国府津線街路事業に伴う埋蔵文化財の記録保存として、発掘調査を実施しています。2005年度は、成田上耕地遺跡と高田南原遺跡の調査を行いました。また次年度は、酒匂堰東地区・下堀地区を計画しています。

今回実施した成田上耕地遺跡は、広い範囲の調査ではありませんでしたが、これまで明らかでなかったこの地域での遺跡の様相を捉えることができました。

なかでも古墳時代前期の溝は、方形周溝墓と呼ばれる4世紀頃の墳墓と考えられるもので、重要な発見です。

その他、古墳時代後期～奈良時代の初め頃の竪穴建物跡や掘立柱建物跡など多数の遺構が発見されています。遺物は土師器や須恵器など土器のほか、古墳時代前期の青銅製の矢じりである銅鏃の出土が特筆されます。

今回の穴部・国府津線に伴う調査成果をいち早く皆様にお知らせするためこのパンフレットを作成しました。

ここで発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理や分析などを経て発掘調査報告書として刊行し、正式に公開されます。

これら先人達の足跡を、郷土小田原の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。

